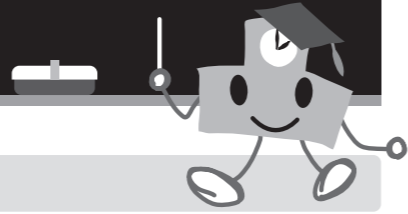


中学校の事例 豊平区 月寒中学校

生徒会サミットでの共同回収に参加。地域のイベント参加をとおして環境への関心を広げる。

生徒会サミット参加校。校内だけでなく地域とも協働で収集し広がりある取組に。



はじめり 豊平区内の中学校で共同回収

本校では「豊平区生徒会サミット」の発案による、共同でのリングプル・ペットボトルキャップ収集活動に参加している。「豊平区生徒会サミット」は平成17年に始まった区内の市立中学校10校の代表による交流会で、年に2回、生徒会活動の情報交換を目的として行われている。



まとめられたリングプル

内容 地域との協力で効率よく目標を達成

本校では各学級にリングプルの回収ボトルを1つずつ設置しているほか、ペットボトルキャップの回収箱を校内1か所に設置し、常時回収を行っている。

また、ペットボトルキャップは、地域の公園で行われる町内会の夏祭り会場でも回収箱を置かせてもらい、効率よく大量に回収することができている。回収活動は各家庭・地域に浸透しており、集まるスピードはとても早い。平成22年度はリングプルの回収で、車いす2台と交換が実現できた。1つの学校ではなかなか成果が出にくいですが、区内の中学校同士が協力し合い、また地域の方にも協力してもらうことで相乗効果がある。



ペットボトルキャップの回収箱

効果 習慣的な回収で環境意識が定着

本校単独で実施するよりも短い期間で車いすに交換することができるため、達成感が得られやすく、それによって参加意欲も高まる結果となっている。また、手軽に行えるリングプルなどの回収を日常的に行うことで、日頃から環境への意識をもつことに繋がっていると考えられる。

生徒会サミットでは他校の生徒と交流することで他校の取組を知り刺激になるとともに、自分たちと他校の取組を比べることで自分たちの状況も把握することができている。また、こうした場で交流することにより、コミュニケーション能力を高めるといった効果も得ることができる。

さらに、自分の学校のことだけではなく、豊平区の街をどうしたらよいかについても考えていくため、実際に街づくりに参加している実感を得やすく、この街づくり活動をとおして環境への関心も深めることができるのではないかとと思われる。



車いす贈呈のようす

今後 地域と積極的に交流・連携

現在はペットボトルキャップの方が多く集まっており、リングプルの回収率をあげるために、回収箱の設置を増やす必要性を検討している。生徒会サミットは意義のある活動となっているが、効果がサミットに参加した生徒だけにとどまるのではなく、学校全体に浸透していくようにすることも必要ではないかと考えている。

また、環境教育を行うにあたっては学習だけではなく実際に体験することが大事だと考えている。しかし地域の活動は日中の時間が多く、休日には小学生向けの活動が多いため、中学校のカリキュラムでは参加が難しいのが現状である。

そのため、教科の中で日常生活に活用できるような学習をし、日頃の環境意識を高めていくような努力を行っている。



キャップをまとめている

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

今後は、地域行事に実際に参加し、地域の人と関わる中で環境意識を高めていく機会を設け、小学校との連携を検討していきたいと考えています。

また、「エコ」という言葉だけに左右されず、例えば「エコ商品を買うのか」「古いものを続けて使うのか」「本当に正しいのか」を改めて考え、総合的に判断できる消費者になれるよう育てなければならぬと考えています。